

IV-18 帯広市に於ける駐車実態調査について

三菱地所株式会社 正会員 ○石津 保彦
北海道大学工学部 正会員 堀田 行

1 まえがき

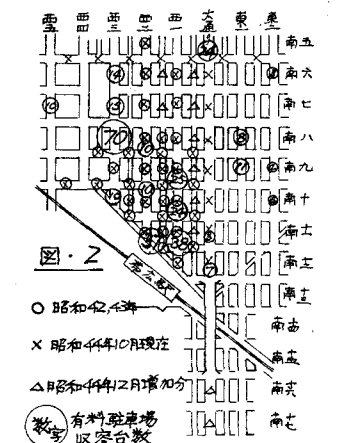
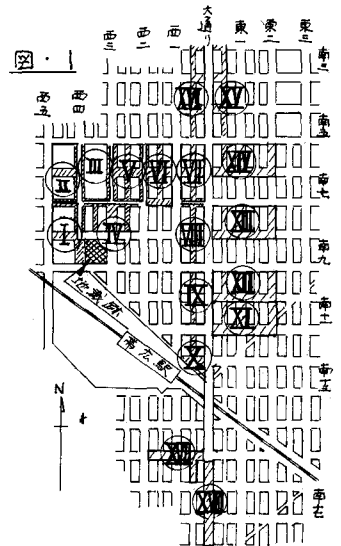
昭和32年駐車場法が制定された。この法律は当初東京、大阪等の大都市を対象として制定されたものであるが、現今の自動車交通の急増により地方中小都市においてもしだいに指定される傾向にあり、現在全国で約20都市が法の指定を受けている。北海道十勝地方の中枢管理機能をもつ帯広市においても都心部における路上駐車が禁止される趨勢にあるとき、大規模建築物に対する附置義務駐車場や路外駐車場等による施設の充実を図るためには、まず駐車場整備地区指定の認可を受け総合的な駐車場の整備計画がたてられなければならない。そこで科学的な根拠に基づいて駐車の実態、習性把握し駐車場計画の有効な資料を得るために、駐車実態調査を行、たつてその調査結果を報告する。

2 駐車実態調査の概況

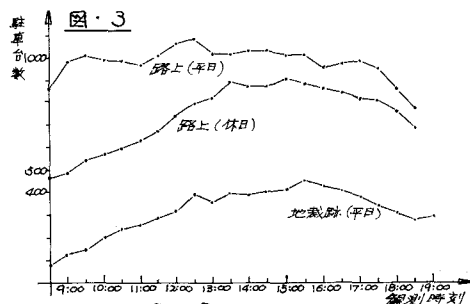
帯広市における現在の交通状況、建築物の状況等の予備調査により都心部及びその周辺部の路上、路外駐車について昭和44年9月21日(日)及び10月8日(水)の2日間、両日とも50人のアルバイト生を動員して午前8時半より午後7時まで、路上駐車については調査区域を18地区にわけ30分間隔のプレート連続式調査、路外駐車については将来公共路外駐車場に予定されている旧帯広地方裁判所跡地(現在約400台収容可能であり無料のいわゆる青空駐車場)においてプレート連続式調査を行な、た。その他の路外駐車場としては帯広駅前約60台収容可能なスペースがあり(30分以上有料)、その他はほとんどが短期的な月決めの有料駐車場であり全収容台数は329台であった。図・1は調査箇所を、図・2は駐車禁止路線及び有料駐車場の収容台数を示したものである。

3 集計結果

表・1、表・2は平日及び休日の調査結果を総括したものである。これを調査箇所全域(路上)でみると実駐車台数は平日6758台、休日4754台で平日が4割程多く、業務による駐車が買物、娯楽による駐車よりも多いことを示している。みかけの平均駐車時間は平日91分、休日97分で両日に差違はみられない。平日の回転率は全域で0.460であるが繁華街に近いⅦ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ地区では高い値を示している。平均占有率についても同様の傾向である。最大駐車時刻は平日は12時30分、休日は午後3時であった。一方裁判所路外駐車場では平日の総駐車台数1618台、平均駐車台数314台(平均



占有率78.9%)である。しかし午後1時30分～4時30分ごろにかけては許容駐車台数400台を超えた利用状況であり、もうすでに飽和に達した状態であるといえるだろう。平均駐車時間は123分であり路上駐車に比べて30分程長く、平均回転率も0.383と路上より低い。尚図・3は路上及び地蔵跡の時刻別駐車台数を示している。



表・1

地区	許容駐車台数	実駐車台数	平均駐車台数	最大駐車台数	平均駐車時間	平均回転率	平均占有率
I	40 ^a	142 ^b	15 ^a	30 ^b	69 ^a	0.338	38.8 ^a
II	61	76	8	14	63	0.119	12.4
III	65	107	15	22	89	0.157	23.3
IV	97	514	88	105	107	0.505	90.3
V	106	418	63	81	95	0.376	59.0
VI	89	710	103	133	92	0.760	116.2
VII	80	463	82	93	111	0.551	102.3
VIII	58	430	59	69	87	0.706	102.5
IX	51	446	55	63	78	0.833	108.2
X	47	344	45	63	83	0.697	96.4
XI	86	416	57	68	86	0.461	66.3
XII	100	366	94	111	104	0.539	93.6
XIII	100	413	61	82	92	0.393	60.5
XIV	100	487	64	81	82	0.464	63.6
XV	108	389	58	76	94	0.343	53.7
XVI	108	315	48	66	96	0.278	44.6
XVII	48	225	33	42	75	0.546	68.7
XVIII	54	247	28	33	72	0.436	52.5
計	1398	6758	976	1085	91	0.460	69.8
地	400	1618	314	434	123	0.385	78.9

表・2

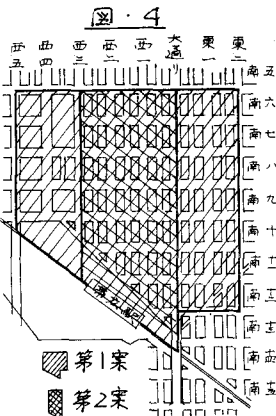
地区	許容駐車台数	実駐車台数	平均駐車台数	最大駐車台数	平均駐車時間	平均回転率	平均占有率
I	40 ^a	364 ^b	45 ^a	63 ^b	79 ^a	0.867	113.8 ^a
II	61	69	12	27	112	0.108	20.1
III	65	213	31	54	90	0.312	46.9
IV	97	494	76	105	96	0.485	77.7
V	106	477	81	108	107	0.429	76.3
VI	89	506	78	114	97	0.541	87.7
VII	80	220	34	45	96	0.262	41.8
VIII	58	349	48	60	86	0.573	82.3
IX	51	305	41	54	85	0.570	80.9
X	47	217	30	46	87	0.440	63.8
XI	86	218	29	44	84	0.241	34.0
XII	100	304	48	71	100	0.290	48.1
XIII	100	310	49	65	100	0.295	49.4
XIV	100	186	46	56	156	0.177	46.0
XV	108	165	31	39	118	0.146	28.7
XVI	108	124	25	36	126	0.109	22.9
XVII	48	119	16	25	86	0.236	33.9
XVIII	54	114	13	20	85	0.201	28.6
計	1398	4754	735	904	97	0.324	52.6
地	320	1996	407	551	127	0.594	125.8

4. 駐車需要の推計

駐車需要は駐車現象が複雑でありまた都市の持つ性格、規模、機能などを十分配慮しなければならぬため正確な予測は難しい。帯広市においても資料等に難点があり、たのでここでは概略の推計を行なうにとどめた。図・4はその対象地区で、表・3は昭和43年OD調査による発生集中交通と今回の実態調査を用いて行な、た昭和60年の駐車需要の推計結果である。

5. むすび

この研究では駐車実態調査及びその結果に主眼を置いた。駐車現象は複雑で非常に局所的なものであり、それを把握するためにはその地区に精通している必要がある。また実態調査を行なう



表・3

場合にはその方法をかなり検討しなければならない。さらに駐車場整備計画を行なう場合には交通規制あるいは有料化による進退、利用者、利便（誘致距離）等も考慮しなければならない。駐車問題は地中中小都市において今後最も問題となる一つであろう。これがその参考の一つとなれば幸である。

	第1案		第2案	
	昭和44年	昭和60年	昭和44年	昭和60年
発生集中交通量	13970 ^a	60360 ^b	5600 ^a	24570 ^b
1日駐車台数	10809	46860	6635	29110
平均駐車台数	1652	7160	1038	4550
最大駐車台数	1934	8380	1231	5400
計画駐車台数	—	8000	—	5000
面積(㎡)	900,000		350,000	